

# 自分の住む地域に愛着を持ってほしい！

特定非営利活動法人 音の風  
代表理事 西野 桂子 さん



大変かなあと思ったのですが、お母さんがいっぱいいる感じで温かかったんです。入ってみると面白いですよ！（西野さん）

特定非営利活動法人音の風は、プロ・アマチュアを問わず、音楽を活かした地域福祉への貢献を目的に、2003年に設立された法人です。設立当初より「音楽ボランティア養成講座」を実施し、講座修了生を対象に福祉施設・自治会・町内会等への音楽ボランティアの派遣事業を地域で積極的に展開しています。

現在では貞教学区自治連合会、修道学区自治連合会、岡崎学区自治連合会など、様々な自治会・町内会と連携して活動を行っています。



## ■きっかけとなった“気づき”～知ってるつもりでいいのか～■

設立当初から地域の音楽ボランティアや音楽療法士の派遣依頼に応え、数多くのボランティアを派遣してきましたが、よく考えると地域に人を送り出しているだけで、地域の何を知っているのか、実は地域に触れていないのでは…と感じるようになりました。

「当時は地域にどのような社会資源があって、どのような人たちが住んでいて、どのような課題があるのか全く知らずに“知ってるつもり”になっていた」そう語る西野さん。それから積極的に地域に関わるようになっていきました。

「音の風」は音楽を題材に活動を展開しているため、場合によっては単に自分たちのやりたいことだけをやっている団体と誤解されてしまうこともしばしばあったそうです。そこで、しっかりと理念や目的があって活動しているんだということを理解してもらうため、そのためには「地域が本当に何を望んでいるのかを知りたい」と思い、地域のことを知ろうとすることから始められました。



## ■どうやってコンタクトを取ったのか？■

最初は東山区にある社会福祉協議会にボランティア団体として登録を行うことから始められました。各区の社会福祉協議会は、その地域と密接な関係を持って活動しており、自治会や町内会とのつながりも持っているため、そこで地域のキーパーソンとの出会いを求めて東山区社会福祉協議会にコンタクトを取り始めました。

すると、そこには自治会・町内会の役員をされている方々が関わっておられ、そこから活動が一気に地域に広がってい

きました。その中で印象に残っているという連携活動として、東山区の「歌」を作った取組を挙げられました。たまたま音楽ボランティア派遣事業の一環で、参加者の地域の方々とは何気なく東山区の歌を作って歌ってみようという話になったのですが、思った以上に反響があり、新聞にも取り上げられました。今では何か学区で行事があると、この歌をみんなで歌っているそうです。

### ■自分の住む地域でできることを目指して…■

自治会・町内会と連携することについて、大変だと感じることはあまりなかったとのこと。

それ以上に、自治会・町内会等の地域と連携することのメリットとして、団体のメンバーが自分の住む地域で何かできることを見つけ、地域に貢献できる存在になれると考えておられます。

実際に「音の風」では、メンバーが自身の地域に帰って、手話を習い始めたり、傾聴を学び始めたりと、音楽以外で自身ができることの幅を広げ始めるなど、次のステップへ自ら進む動きが出てきているそうです。自治会・町内会との連携は、単に活動を円滑にするためだけではなく、そこに携わったメンバーたちに多くの気づきや学びを与えてくれるものでもあります。

### ■自治会・町内会と団体が両想いになるためには…■

音楽ボランティアや音楽療法士の派遣等の取組は、メンバーがボランティアとして活動しているため、無理なく活動を続けることができていますが、より継続的な活動につなげていくためには、地域にしっかりと根付いて、地域の方々とは日頃から顔の見える関係をつくって連絡・調整等を行っていく必要があります。しかし、こうした活動は経常的な経費がかさむため、音の風でも困りどころとのこと。



おそらく多くのNPOが課題だと感じていると思われるが、団体を運営していくための事務局の経費等については、成果や効果等が見えづらいため、その必要性をなかなか理解してもらえず、寄附等も集まりにくいという課題もあります。団体と地域がもっと両想いになるためには、日頃から顔の見える関係をつくって連絡・調整等を行っていくことがとても重要で、今後はいかに地域の方々から共感・賛同を得て活動を行っていくことができるかが課題となりそうです。

### ■「音」の「風」を届けるために…■

自分たちの住む地域のことは自分たちでやっていこうという理想を胸に、団体のメンバーが団体の名前の通り「音」の「風」になって地域に飛んでいくという理念の実現に向けて、自治会・町内会をはじめとした地域に積極的に関わっていきたいと力強く語られました。

### ■最後に…■

「自分たちの住む地域に愛着を持ってもらいたい」という理想の実現にはまだまだ時間が必要で、自治会・町内会との連携においても上手く進まなかったり、ちょっとしたことでめげる時もあるとお聞きしました。そのようなときに、組織基盤がしっかり整っていれば、メンバーはもちろん自治会・町内会へのサポートも、もっときめ細やかに行えるようになります。今後は自治会・町内会をはじめとした地域の方々にも積極的に関わってもらえる体制づくりがカギとなってくると感じました。